

[夏に強く高品質なブルーベリーの育成]

観賞用選抜系統の特性調査

中村圭亨・渋谷圭助・鶴沢玲子\*・宮下千枝子\*<sup>2</sup>・馬場 隆\*<sup>3</sup>

(緑化森林科・\*園芸技術科) \*<sup>2</sup>現島しょセ八丈 \*<sup>3</sup>現小笠原農セ

---

**【要 約】**ブルーベリー種間雑種および戻し交雑個体集団から選抜した「TEa-1」系統は、生長が緩やかで樹形もまとまりやすく、省管理性がある。また、新葉や紅葉など観賞性も高く、花や実も楽しめることから、東京の緑化樹木として有望な系統である。

---

**【目 的】**

ブルーベリーは、果樹のみならず、紅葉などの観賞性もあって人気が高い。耐乾性・耐暑性に優れた高品質のブルーベリーの作出を目的として行ったハイブッシュブルーベリー、ラビットアイブルーベリーおよび野生種の交雑個体集団の中から、昨年までに、観賞性に優れ、省管理であり、東京の緑化樹として有望な「TEa-1」系統を選抜し、その増殖性について調べた。「TEa-1」は、野生種同士の交配種「To303」とハイブッシュブルーベリー「アーリーブルー」を親に、組織培養によって作出された系統である(図1)。今回は、「TEa-1」系統の樹形や観賞性等について特性を明らかにした。

**【方 法】**

調査は、定植後3年経った5年生の「TEa-1」系統10個体、および、対照として「ティフブルー」、「タカヘ」、「レッドパール」各2個体について、2010年12月に樹高、樹幅(東西および南北)、枝数について実施した。また、「TEa-1」系統について、2009年10月から2010年12月まで、葉色および花、果実等の状況を観察した。

**【成果の概要】**

1. 樹形：平均樹高は、66.7cmで、他の品種と比較して低く抑えられていた(表1)。枝数は多いが、強い枝が発生せず、無剪定でも樹形が卵形にまとまり、細かい葉が多数付いた形状である(図2)。
2. 観賞性：特徴のある葉色については、新葉が紅色を呈し(図3)、紅葉は赤色が主体で、一部赤褐色が混在した(図4)。紅葉期間は、2009年は10月中旬より12月下旬まで、2010年は10月初頭から11月末まで、2ヶ月強と比較的長い観賞期間である。
3. 花・実：花芽は、今年初めて確認された(図5)。蕾はアントシアニン着色が強く、花冠は白色で、つぼ型、数は少ないが結実が見られた(図6)。果実は小さく、食べられるが収量は少ない。
4. まとめ：本系統は、枝数の多さから、刈り込みにも耐えると考えられるが、無剪定でも自らまとまった樹形を呈し、生長が緩やかなことから剪定回数が少なく、省管理性がある。新葉が薄紅色で、紅葉は比較的長期間続き、花や実も着くことから観賞性も高い。2009年度の成果より、東京(立川)における生育や増殖性にも問題がなく、東京の緑化樹木として有望な系統であると考えられる。

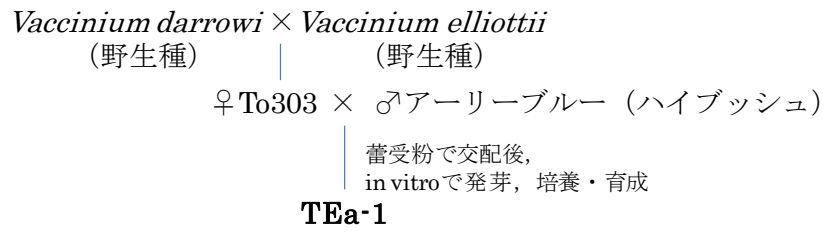


図1 「TEa-1」系統の育成過程

表1 各品種における大きさと枝数

樹種	調査株数	樹高	樹幅(東西/南北)	枝数
TEa-1	10	66.7	76.7 (1.02)	927.3 <sup>※</sup>
ティンブルー	2	128.0	93.8 (0.99)	385.5
タカヘ	2	148.5	78.8 (1.01)	414.5
レッドパール	2	90.5	61.5 (1.28)	346.0

※夏季に落葉した3株を除く(n=7)

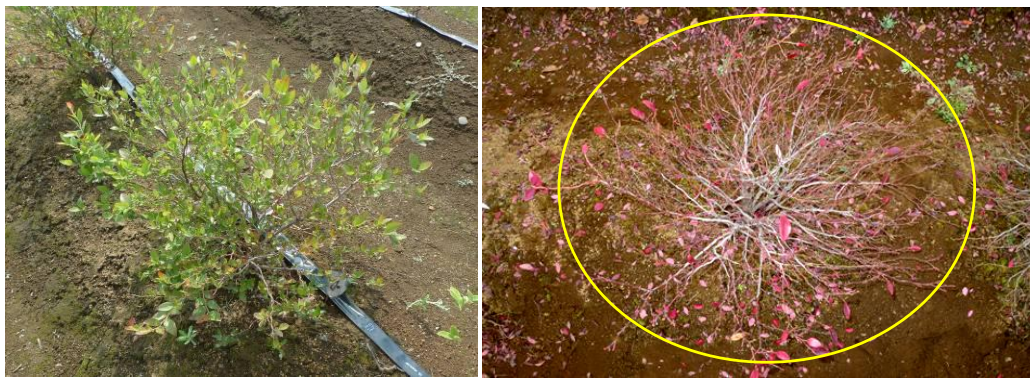


図2 樹形の様子(左:2010年8月16日撮影, 右:落葉後12月2日直上から撮影)



図3 新芽の様子



図4 紅葉の様子



図5 花芽の様子



図6 果実の様子